

豪賃金指数や豪雇用統計に注目

- ◆豪賃金指数や豪雇用統計に注目が集まる
- ◆豪ドルは月末の米中首脳会談を控え神経質な動きになるか
- ◆南アからポジティブな材料はなく、ZAR の買い戻しは行き過ぎか

予想レンジ

豪ドル円 77.50-85.00 円

南ア・ランド円 7.50-8.30 円

11月12週の展望

豪ドルは経済指標や米国の政治動向で動きそうだ。米中間選挙や11月の米連邦公開市場委員会(FOMC)が終わったが、年末にかけて米国市場の動きで豪ドルが上下する状況は変わらないだろう。特に今月末はG20でトランプ米大統領と中国の習国家主席の首脳会談が行われることもあり、この結果が為替市場全体に与える影響が大きい。来週も水面下での動きが出てくるだろう。

豪準備銀行(RBA)の声明文は市場にとってサプライズだった。「低水準の政策金利が豪経済を引き続き支えている」と引き続き低金利維持を示唆したものの、「今後数年間にわたってインフレは段階的に上昇していくと予想」「2019年のインフレ見通しは2.25%」という予想外の表現が豪ドルの買いにつながった。中国経済が米国との関税合戦により冷え込む可能性があり、当面は現在の金利水準を変更することはないだろうが、来年前半は利上げモードになる可能性もある。

来週は10月のNAB企業信頼感ならびに景況感指数、最近注目度が高くなっている7-9月期の賃金指数、10月の雇用統計が発表される。9月雇用統計では失業率は市場予想の5.3%に対し、5.0%と良好な結果となった。隣国のNZの失業率も予想を上回ったこともあり、新たに好結果が出た場合はオセアニア通貨全体が買い上げられる可能性が高い。

南ア・ランド(ZAR)の上値は限定的か。米中間選挙が終わり対円・対ドルともにZARは3カ月ぶりの水準まで急伸した。南アのポジティブな材料がほとんどないにもかかわらず上昇していることを考えると、調整の買いとしては明らかにオーバーシュートであろう。現在は景気後退局面であり、主要格付け会社全てから南ア債がジャンク扱いを受ける可能性もある中で買い進めるのは難しいだろう。ここ最近ではZAR市場が非常にボラティルであるため、来週も乱高下することになりそうだ。南アからは14日に9月の小売売上高が発表される。

11月5日の回顧

豪ドルは堅調に推移した。RBAは6日に政策金利を1.50%で据え置いた。政策金利据え置きは市場の予想通りだったが、そのあとの声明文では今年・来年の実質国内総生産(GDP)見通しを引き上げたほか、インフレの先行きについて楽観的な見解を示したことで豪ドルは上昇した。対円では8月1日以来となる83円近辺、対ドルでは9月26日以来となる0.73ドルまで上値を広げた。NZの7-9月期失業率が市場予想の4.5%よりも大幅に良い3.9%となったことも、同じオセアニア通貨の豪ドルのサポート材料となった。米中間選挙の結果発表時は関連ニュースで上下したが、株式市場が堅調だったことで豪ドルは強含んだ。

ZARも大幅に上昇した。週初から米中間選挙を前にして、ZARの売りもちを解消するフローが出たために買いが優勢となった。米中間選挙後で株価が上昇すると、ZARは対円・対ドルともに8月上旬の水準まで上昇した。(了)